

「企業経営者意識調査 Business Survey Index」の概要

(平成 28 年 10-12 月)

平成 29 年 2 月 1 日
経済部経済企画局経済企画課






1 企業業況感等調査 (調査数 1,000 社、回答数 601 社)

- 今期の業況感 BSI は、水準としては引き続きマイナスだが、前期から 1 ポイント上昇。 (前期：△12 今期：△11 来期見通し：△17)
- 業種別では、建設業、製造業、卸売・小売業で上昇、運輸業、サービス業で下降。
- 地域別では、道北、オホーツク、十勝、釧路・根室で上昇、道南、道央で下降。
- 来期見通しは、今期から 6 ポイント下降。 業種別では全業種で下降。
地域別ではオホーツク、十勝で上昇、道南、道央、道北、釧路・根室で下降。



※BSI指標は、「上昇」「横ばい」「下降」の選択肢により調査し、「上昇企業の割合(%) - 下降企業の割合(%)」で算出。

(1) 業況感

ア 業種別業況感

- 【建設業】 5 ポイント上昇  (前期 △ 7 → 今期 △ 2)
 - ・台風被害による災害復旧工事の増加などにより、土木工事業でプラス幅が拡大
 - ・新築戸建て住宅の順調な受注などにより、建築工事業でマイナス幅が縮小
- 【製造業】 2 ポイント上昇  (前期 △ 9 → 今期 △ 7)
 - ・木造畜舎の建設増加などにより、木材・木製品製造業でプラスに転換
 - ・台風による工場閉鎖などにより、生産用機械製造業でマイナスに転換
- 【卸売・小売業】 8 ポイント上昇  (前期 △ 21 → 今期 △ 13)
 - ・新型車の販売開始などにより、自動車小売業でマイナス幅が縮小
 - ・宣伝・営業の強化や販路の開拓などにより、産業用機械器具卸売業でプラス幅が拡大
- 【運輸業】 4 ポイント下降  (前期 △ 11 → 今期 △ 15)
 - ・大雨災害による農作物輸送量の減少などにより、道路貨物運送業でマイナス幅が拡大
 - ・鉄道不通による都市間高速バスの需要増などにより、道路旅客運送業でプラス幅が拡大
- 【サービス業】 3 ポイント下降  (前期 △ 11 → 今期 △ 14)
 - ・人口減少による需要の減少などにより、洗濯・理容・美容・浴場業でマイナス幅が拡大
 - ・災害の発生による業務量増加などにより、土木建築サービス業でプラスに転換

イ 地域別業況感

- 【道南】 23 ポイント下降  (前期 5 → 今期 △ 18)
 - ・魚介類の不漁による原材料価格の高騰などにより、食料品製造業でマイナス幅が拡大
 - ・北海道新幹線効果が一時期より薄れたことなどにより、飲食店でマイナス幅が拡大
- 【道央】 5 ポイント下降  (前期 △ 10 → 今期 △ 15)
 - ・悪天候による農作物の収量不足や品質低下などにより、飲食料品卸売業でマイナス幅が拡大
 - ・インバウンドの好調継続などにより、宿泊業でプラス幅が拡大

《札幌市を除く》 2ポイント上昇 ➡ (前期 △ 16 → 今期 △ 14)

- ・宣伝・営業の強化や販路の開拓などにより、総合工事業でプラス幅が拡大
- ・原材料仕入価格の上昇などにより、飲食料品小売業でマイナス幅が拡大

《札幌市》 9ポイント下降 ⚡ (前期 △ 5 → 今期 △ 14)

- ・市場縮小や競争激化などにより、機械器具小売業でマイナス幅が拡大
- ・保管量の減少などにより、倉庫業でマイナス幅が拡大

【道北】 18ポイント上昇 ➡ (前期 △ 22 → 今期 △ 4)

- ・台風被害による災害復旧工事の増加などにより、総合工事業でプラスに転換
- ・宣伝・営業の強化や販路の開拓などにより、機械器具小売業でプラス幅が拡大

【オホーツク】 5ポイント上昇 ➡ (前期 △ 17 → 今期 △ 12)

- ・新たなソフトウェアの販売開始などにより、情報サービス業でプラス幅が拡大
- ・原材料仕入価格の上昇などにより、食料品製造業でマイナス幅が拡大

【十勝】 14ポイント上昇 ➡ (前期 △ 17 → 今期 △ 3)

- ・台風被害による災害復旧工事の増加などにより、総合工事業でプラスに転換
- ・宣伝・営業の強化や販路開拓などにより、宿泊業でプラス幅が拡大

【釧路・根室】 17ポイント上昇 ➡ (前期 △ 18 → 今期 △ 1)

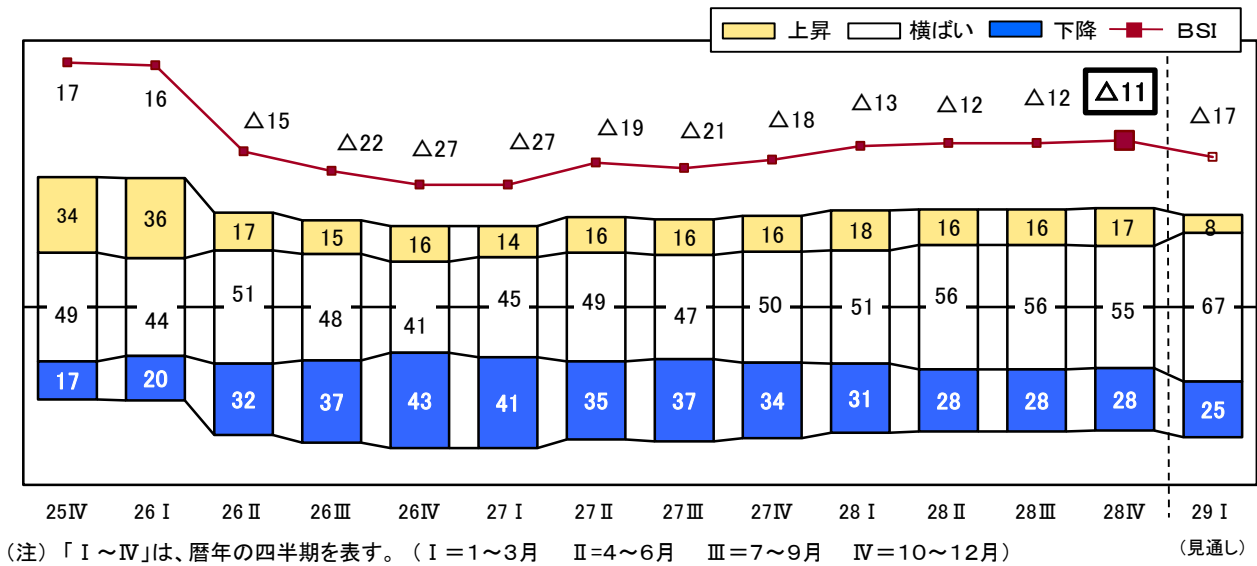
- ・鉄道不通による都市間高速バスの需要増などにより、道路旅客運送業でプラス幅が拡大
- ・木造畜舎の建設増加などにより、木材・木製品製造業でプラスに転換

業況感(業種・資本金・地域別)

区分	H28年 7-9月 実績BSI	H28年10-12月実績					H29年1-3月見通し					
		上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅	上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅	
総計	△ 12	17	55	28	△ 11	1	8	67	25	△ 17	△ 6	
札幌市を除く	△ 14	18	54	28	△ 10	4	8	67	25	△ 17	△ 7	
札幌市	△ 5	13	60	27	△ 14	△ 9	7	68	25	△ 18	△ 4	
業種	建設業	△ 7	19	60	21	△ 2	5	14	67	19	△ 5	△ 3
	製造業	△ 9	17	59	24	△ 7	2	10	68	22	△ 12	△ 5
	卸売・小売業	△ 21	17	53	30	△ 13	8	6	67	27	△ 21	△ 8
	運輸業	△ 11	14	57	29	△ 15	△ 4	4	71	25	△ 21	△ 6
	サービス業	△ 11	18	50	32	△ 14	△ 3	8	64	28	△ 20	△ 6
資本金	5千万円未満	△ 16	16	53	31	△ 15	1	7	65	28	△ 21	△ 6
	5千万以上~1億円未満	△ 3	23	52	25	△ 2	1	11	69	20	△ 9	△ 7
	1億円以上	△ 7	14	67	19	△ 5	2	10	72	18	△ 8	△ 3
地域	道南	5	13	56	31	△ 18	△ 23	3	64	33	△ 30	△ 12
	道央	△ 10	15	55	30	△ 15	△ 5	8	64	28	△ 20	△ 5
	札幌市を除く	△ 16	18	50	32	△ 14	2	8	62	30	△ 22	△ 8
	札幌市	△ 5	13	60	27	△ 14	△ 9	7	68	25	△ 18	△ 4
	道北	△ 22	20	56	24	△ 4	18	9	67	24	△ 15	△ 11
	オホーツク	△ 17	15	58	27	△ 12	5	9	72	19	△ 10	2
	十勝	△ 17	26	45	29	△ 3	14	16	66	18	△ 2	1
釧路・根室	△ 18	20	59	21	△ 1	17	5	78	17	△ 12	△ 11	

ウ 業況感BSIの推移

・業況感BSIは、平成27年以降上昇傾向で推移



(2) 雇用者の不足感(「不足」－「過剰」)

今期の雇用者の不足感BSIは39(前期から2ポイント下降)

- ・業種別にみると、建設業、運輸業、サービス業でプラス幅縮小、製造業、卸売・小売業でプラス幅拡大
- ・地域別にみると、道南、道北、オホーツク、釧路・根室でプラス幅縮小、道央、十勝でプラス幅拡大

雇用者の不足感(業種・資本金・地域別)

区分	H28年 7-9月 実績BSI	H28年10-12月実績					H29年1-3月見通し				
		不足	適正	過剰	BSI	変化幅	不足	適正	過剰	BSI	変化幅
総計	41	42	55	3	39	△2	39	58	3	36	△3
札幌市を除く	41	41	56	3	38	△3	38	59	3	35	△3
札幌市	41	47	50	3	44	3	42	54	4	38	△6
業種											
建設業	58	56	41	3	53	△5	48	48	4	44	△9
製造業	30	36	61	3	33	3	34	64	2	32	△1
卸売・小売業	22	29	66	5	24	2	29	65	6	23	△1
運輸業	53	50	48	2	48	△5	45	53	2	43	△5
サービス業	46	44	53	3	41	△5	39	59	2	37	△4
資本金											
5千万円未満	38	39	58	3	36	△2	36	61	3	33	△3
5千万以上～1億円未満	45	50	47	3	47	2	45	54	1	44	△3
1億円以上	48	47	49	4	43	△5	41	54	5	36	△7
地域											
道南	37	34	65	1	33	△4	31	68	1	30	△3
道央	37	42	54	4	38	1	39	57	4	35	△3
札幌市を除く	34	37	58	5	32	△2	36	60	4	32	0
札幌市	41	47	50	3	44	3	42	54	4	38	△6
道北	50	52	45	3	49	△1	49	49	2	47	△2
オホーツク	46	41	54	5	36	△10	37	58	5	32	△4
十勝	48	52	45	3	49	1	44	53	3	41	△8
釧路・根室	36	31	69	0	31	△5	26	72	2	24	△7

(3) 設備投資の状況（今期の実績）

- ・「設備投資をした」と回答した企業は32%で、前年同期と比べて4ポイント下降、前期と比べて1ポイント下降
- ・設備投資の目的については、「設備更新」が76%、「生産・販売能力拡大」が31%、「合理化・省力化」が17%（複数回答）

設備投資の状況(H28年10-12月実績)(業種・資本金・地域別)

(%)

区 分	H28年7-9月 設備投資した	H28年10-12 月 設備投資した	設備投資の目的(複数回答)						
			設備 更新	生産・ 販売能 力拡大	合理化・ 省力化	環境 保全	研究 開発	経 営 多角化	その他
総 計	33	32	76	31	17	6	5	4	4
札幌市を除く	32	30	75	30	18	6	4	5	2
札幌市	36	39	76	33	14	6	8	2	8
業 種									
建設業	26	15	80	7	7	0	13	7	0
製造業	46	43	80	37	28	7	7	7	2
卸売・小売業	26	33	67	38	12	5	2	5	7
運輸業	42	45	76	29	7	7	2	2	2
サービス業	30	27	77	27	21	8	4	2	4
資 本 金									
5千万円未満	27	28	68	34	15	6	4	5	5
5千万以上～1億円未満	37	30	80	20	11	6	6	3	0
1億円以上	56	52	90	31	23	6	6	2	4
地 域									
道南	30	21	73	13	13	7	7	7	7
道央	36	38	77	33	16	6	6	4	5
札幌市を除く	37	38	77	32	19	6	4	6	2
札幌市	36	39	76	33	14	6	8	2	8
道北	28	33	68	36	21	4	4	7	0
オホーツク	37	33	80	30	10	15	5	5	5
十勝	30	32	70	40	20	5	0	0	0
釧路・根室	30	19	92	8	17	0	0	0	0

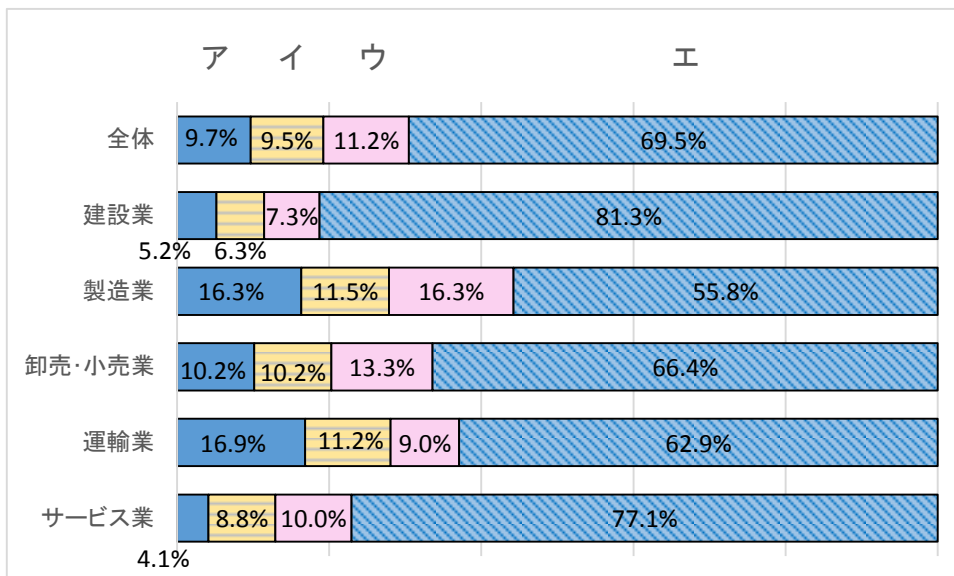
2 特別調査

(1) 円高傾向の影響

ア 影響の有無（回答 587社）

- ・影響があるとした企業（「ア」～「ウ」）は全体で30.4%、業種別では、製造業の44.1%、次いで運輸業の37.1%の順となった。

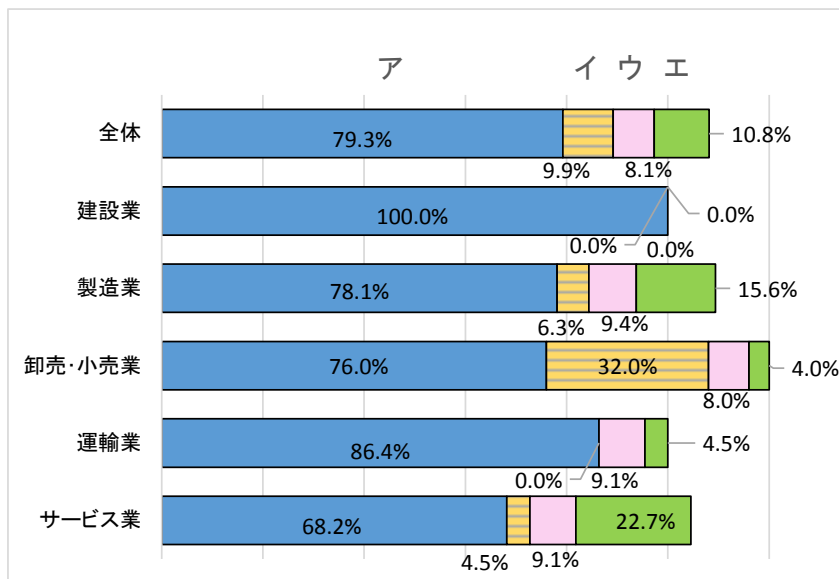
ア. メリットがある	イ. デメリットがある	ウ. メリット、デメリット両面ある	エ. 特に影響はない
------------	-------------	-------------------	------------



イ 円高傾向により生じているメリット（回答 111 社）

- ・全体で最も多かったのは「ア. 原材料等の輸入価格の低下による収益の増加」(79.3%)、次いで「イ. 販売価格の引下げに伴う国内売上数量の増加」(9.9%)となった。
- ・各業種とも「ア. 原材料等の輸入価格の低下による収益の増加」が高くなっており、卸売・小売業では「イ. 販売価格の引下げに伴う国内売上数量の増加」(32.0%)も高くなっている。

ア. 原材料等の輸入価格の低下による収益の増加
 イ. 販売価格の引下げに伴う国内売上数量の増加
 ウ. 金融・為替取引での収益の増加
 エ. その他 ※ 複数回答



ウ 円高傾向により生じているデメリット（回答 105 社）

- ・全体で最も多かったのは「ア. 販売価格の上昇・引上げに伴う国外売上数量の減少」(39.0%)で、次いで「イ. 海外からの観光客及び消費の減少に伴う売上減少」(30.5%)となった。
- ・業種別にみると、建設業で「ア. 販売価格の上昇・引上げに伴う国外売上数量の減少」(66.7%)、サービス業で「イ. 海外からの観光客及び消費の減少に伴う売上減少」(53.8%)が多かった。

ア. 販売価格の上昇・引上げに伴う国外売上数量の減少
 イ. 海外からの観光客及び消費の減少に伴う売上減少
 ウ. 金融・為替取引での収益の減少
 エ. その他 ※ 複数回答

